

TOSHIBA

第 159 期 中間報告

(1997.4.1 ~ 1997.9.30)

特集1 *on Demand*で応える東芝のマルチメディア

特集2 幅広く活躍する東芝の半導体製品

株主のみなさまへ



TOP MESSAGE

株主のみさまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素のご支援ならびにご愛顧に対し、厚くお礼申し上げます。

また、このたび新たに当社株式を取得され、株主となられたみなさまに対しましては、心よりお礼申し上げますとともに、今後とも末永くご愛顧のほどお願いいたします。

さて、1997年4月1日から9月30日までの上半期の事業概況等につきましてご報告申し上げます。

全体の概要

当上半期のわが国経済は、円安により輸出が拡大し、企業業績の改善を背景に設備投資も増加しましたが、消費税率の引き上げや特別減税の廃止等により個人消費、住宅投資が低迷し、公共投資も抑制されたことから、停滞しました。海外では、米国経済は、好調な個人消費、設備投資に支えられ引き続き高成長を維持しましたが、欧州は全般的に景気回復への足どりは重く、アジア経済は通貨不安等により減速しました。

当社は、このような情勢の中で、事業構造の変革や国際化を進めるとともに、市場環境の変化に敏速に対応する経営体制の構築に取り組みました。この結果、当上半期の売上高は、情報通信システム・電子デバイス部門が増加し、上半期

ベースで過去最高となりましたが、利益面では、パソコンや半導体、家電の価格競争激化等により減益となりました。

部門別の概要

情報通信関係では、コンピュータシステムが、企業の積極的な情報化投資に加え、サーバ事業およびソフト・サービス事業の強化を積極的に進めたことから伸長しました。今後市場の大きな成長が期待できる高速ネットワーク分野では、インターネット等を通じてデータを従来の10倍の速さで転送できる当社独自のセル・スイッチ・ルータ技術のデファクトスタンダード化をめざし、技術供与を積極的に行うとともに、米国に開発・製造を行う現地法人を設立し、米国市場でも事業展開を図っています。

パソコンは、日本では個人消費の低迷により市場は伸び悩みましたが、当社は『リブレット』等のノート型パソコンが好調に推移しました。海外は欧州、アジア向けが順調でしたが、米国向けは価格競争の激化等により落ち込みました。引き続き市場の動向は楽観できませんが、当社としては、市場をリードする製品の開発を強力に推進するとともに、受注から販売までの期間を短縮し、事業体制の一層の強化を図ります。

半導体は、メモリが価格下落により低迷しましたが、移動体通信機器やパソコン周辺機器等の伸長を受けディスクリットやロジックは堅調に推移し、増収となりました。またIBM社と合併で半導体の製造会社を設立し、米国で他社に先駆け64メガビットDRAMの生産を開始しました。

また液晶ディスプレイ(LCD)では、次世代技術として注目されている低温ポリシリコンLCDの量産試作ラインを稼働させ、1998年末の量産に向けて新しい工場の建設を進めております。

重電機部門は、昇降機、電気計装機器は不振でしたが、原子力プラントや海外電力機器の売上が増加し、増収となりました。

家庭電器部門は、消費税率の引き上げ等の影響に天候不順も加わり、エアコンをはじめとして白物家電が落ち込み、テレビも売価ダウンの影響から低迷し、残念ながら減収となりました。

今後の見通し

わが国経済は、当面個人消費、住宅投資などが回復せず引き続き厳しい状況が続くものと思われれます。海外については、米国経済は好調を維持するものの、欧州経済の回復の足どりは緩やかであり、アジア経済も構造的問題を抱えしばらくは鈍化傾向が続くものと思われれます。



このような状況の中で、当社は21世紀に向けて「世界の優良企業」と認められることをめざし、第8次中期経営計画を策定しました。現行の事業を、ベース事業、成長事業、新規事業の3つに分類し、ベース事業である家電、エネルギー事業等については安定的収益基盤の確立をめざし、パソコン、半導体等の成長事業や、マルチメディアに代表される新規事業については積極的に投資を行い力強い成長をめざします。

株主のみまさまには、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

1997年12月

代表取締役社長

西室泰三

on Demandで応える東芝のマルチメディア

on Demand(お望みに応じて)は、東芝がマルチメディア事業を展開する上でのキーワードと考えています。

東芝では、「何ができるか」ではなく、みなさま方一人ひとりの「こうしたい」というお望みを実現していくことを基本姿勢としております。

このようなミッションを推進する中核母体として1994年に Advanced-I (アドバンスト・アイ) 事業本部が発足し、みなさまの on Demand にお応えするために、この事業本部と各事業グループが協力して、全社横断的な事業推進を行っています。

Advanced-I 事業本部では、組織を超えて東芝の情報・通信・映像分野の総合力をフルに発揮し、新規事業、新製品開発等を行っています。

その結果、ここにご紹介するような成果を生み出しております。

東芝のマルチメディアパワー



IT ビジョン

視聴者も参加できる双方向型の放送受信用テレビ。現在、テレビ東京とテレビ大阪が放送しています。



DVD

業界初のポータブルモデルを発売。



ジェニオ

PHS 内蔵の携帯情報端末。インターネットも見られます。



アレグレット

業界最薄・最軽量のデジタルカメラ。パソコンに差し込むことにより、画像を取り込むことができます。

機器・要素技術

パソコン、DVD、インタラクティブTV、ICカード、デジタルカメラ、携帯電話、携帯情報端末、小型メモリカード

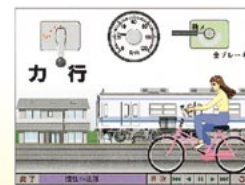


リブレット

発売以来大好評のミニノートパソコンです。

スマートメディア

切手サイズの小型メモリカードです。『ジェニオ』や『アレグレット』にも使用されています。



教育ソフト「運転理論」
鉄道乗務員養成を目的に開発した教材用ソフトです。

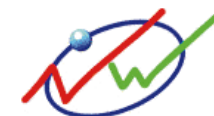
ソフト・サービス

各種ソフト事業
(ビジネス、教育、家庭、エンターテインメント)
情報提供事業



駅前探検倶楽部

インターネットで駅周辺の様々な情報を提供しています。『ジェニオ』でも受信できます。



NewsWatch

ニュースウォッチ
記事情報の検索配信サービス会社「(株)ニュースウォッチ」を設立しました。

情報通信インフラ

インターネット、デジタル放送、無線通信、エレクトロニック・コマース、CATV、医療システム、モバイル放送



東芝のマルチメディアの核となる3つの基盤

1. 誰もがマルチメディアの素晴らしさを味わえる機器・システム・部品・要素技術の開発。
2. 大容量の映像も効率的に送れる情報通信インフラの整備。
3. コンテンツをより豊かにするソフトの開発と情報提供事業。



MediaServe

メディアサーブ

双方向型テレビ『IT ビジョン』をサービスするコンピュータサーバ会社です。



タイタス

米国タイムワーナー社と共同で CATV 会社「(株)タイタス・コミュニケーションズ」を設立。柏、相模原、小平、前橋地区で事業展開中です。

幅広く活躍する東芝の半導体製品

半導体は、小さいながらも今日の電気・電子製品を支える最大の主役と言えます。東芝は、ダイオードやトランジスタ、半導体レーザなどの個別（ディスクリート）半導体と言われる製品から、AV機器、家電製品、通信等に使われるバイポーラLSI、ゲーム、パソコン等の論理回路に使われるロジックLSI、そして情報を記憶するメモリまで、ほぼすべての半導体製品を製造・販売し、世界トップクラスの半導体メーカーとなっています。

先端のロジックやメモリ等のLSI製造には、1ミクロン（1ミリの1,000分の1）以下という超微細加工技術を使っており、何億個ものトランジスタやコンデンサから成る膨大な電子回路を、指先に乗るほどの小さなチップの中に収めることができます。半導体は、電子機器の小型軽量化、低消費電力化、さらに高機能・多機能化になくてはならないものとなっているのです。

では、ここでみなさまのまわりで活躍する東芝の半導体製品のごく一部をご紹介します。

信号処理部

様々な信号処理ICが送られてきた電波を映像と音声に仕分けし、スピーカやブラウン管に正しい信号を送ります。

選局部

ワンチップテレビ用マイコンがテレビ画面上に文字や記号を表示したり、選局制御などを可能にします。

電源部

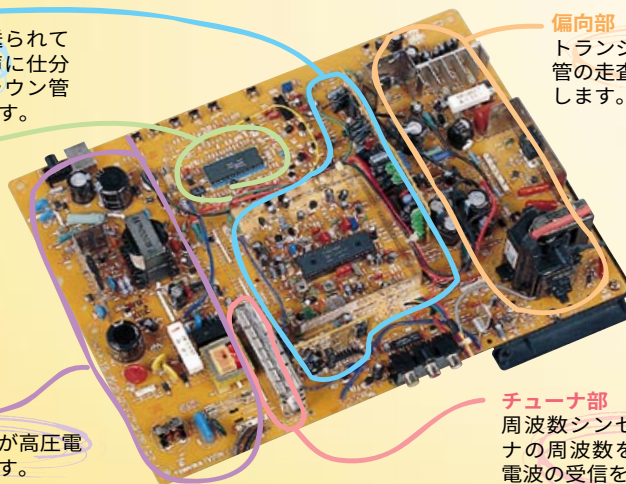
バイポーラICが高圧電流を制御します。

偏向部

トランジスタがブラウン管の走査をコントロールします。

チューナ部

周波数シンセサイザがチューナの周波数を制御し、正しい電波の受信を可能にします。



マンマシンマイコン

液晶表示やキーボタン、メロディー音などのコントロールをします。



フラッシュメモリ

基地局とやり取りをするためのプログラムを格納しています。



ベースバンドLSI

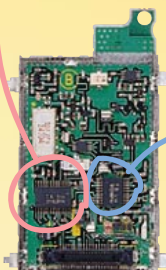
デジタル信号処理をするとともにPHSの中枢部として全体をコントロールしています。

ADPCMコーデック

マイクから入った音声をデジタル信号に変換します。

中間周波帯IC

送られた電波の中から、必要な音声データを取り出します。



周波数シンセサイザ

正しい電波の受信や送信をするために、周波数を制御します。

アンテナスイッチ

送信電波と受信電波の切り替えを行います。

パワーアンプ

音声データが載った電波を増幅して速くに伝播します。

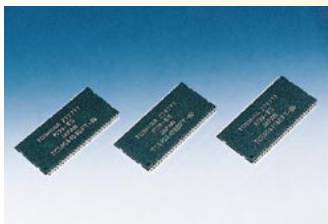


※写真は、東芝第二世代PHSチップセットを使用したリファレンスモデルです。
現在、PHSチップセットは第三世代製品を量産しています。

東芝の最先端LSI

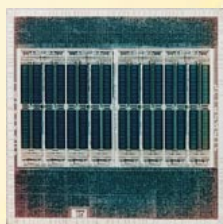
0.25ミクロンの微細加工技術と メモリ・ロジック混載技術で世界をリード

64メガビットDRAM



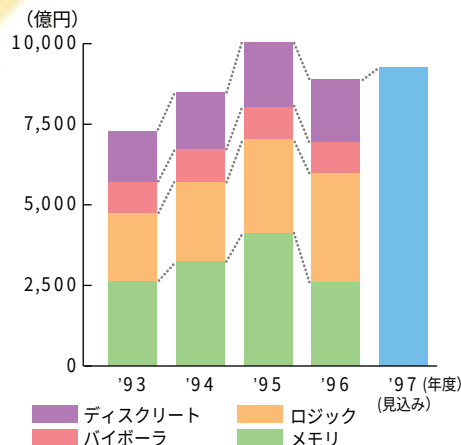
新聞256ページ相当の情報を世界最小の79.4平方ミリのチップに記憶できます。

メモリ混載ロジック



先端メモリとロジックを1チップに収め、複雑なシステムを構成することができます。

東芝の半導体売上高推移



TOPICS

電子決済機能を持つICカードを使った リアル・モール実験が神戸で始まりました

「スマート・コマース・ジャパン(SCJ)」が、本年10月4日からIC型クレジットカード用いて、実際の店舗での利用実験を本格的に開始しました。SCJは、電子商取引技術の開発を目的に、1996年2月に設立されたコンソーシアム。当社とビザ・インターナショナルが主幹事会社を務め、カード会社ほか32社が参加しています。

この実験は、通産省の電子商取引推進事業の一環として実施されており、IC型クレジットカードにクレジット機能と電子マネー機能の双方を搭載したカードを世界で初めて発行し、約30,000人のモニターを対象に神戸市内で行われています。マルチメディア社会の

進展にはめざましいものがあり、消費者が安心して簡単に使える電子決済システムの開発が待たれています。今回の実験



は、その先鞭をつける試みと言えます、実験結果が各方面から注目されています。

米国に64メガビットDRAMの量産拠点 となる半導体生産工場が竣工しました

米国ヴァージニア州マナサス市で、当社とIBMによる半導体の合併会社、ドミニオン・セミコンダクタ社の半導体生産工場が竣工しました。

新工場では当初、0.35ミクロンの微細加工技術を用いて64メガビットDRAMの生産を行い、98年度下期以降から、さらに微細化を進めた0.25ミクロンタイプの生産に切り替える計画です。

64メガビットDRAMは、東芝・IBM・シーメンスの3社による256メガビットDRAMの共同開発で得られた成果に加え、当社の四日市工場およびIBMで培った量産技術を活用し、最先端のメモリを生産します。



TOPICS

府中工場に150メートル級のエレベータ研究塔が完成しました

昇降機分野における先端技術の蓄積と製品開発力の強化を図るため、府中工場内に昨年から建設を進めていたエレベータ研究塔が、今年7月に完成しました。

新研究塔は、地上10階、地下1階、高

さ約136メートル。建設業界を中心に構想されている超高層建築や大深度地下構造物には欠かせない超々高速エレベータ(速度毎分1,000メートル級)、多数の人を一度に運べるダブルデッキ(2階建て)型エレベータなど次世代昇降機の開発を行います。

全世界の昇降機市場は、中国・東南アジアを中心に拡大しています。この新研究塔を、成長著しいアジアの地域市場に密着したモデルの開発拠点としても活用していく予定です。



深夜や早朝でも音を気にせず使える洗濯機を発売しました

当社が、このほど発売した全自動洗濯機「AW-Vシリーズ」(愛称:DDインバータ銀河)は、新開発のDD(ダイレクトドライブ)インバータモーターを搭載し、洗濯・脱水の音を業界で最も小さくすることに成功しました。このため、深夜や早朝でも音を気にせずお使いいただけます。

「うるさくしま^{せん}洗からみま^{せん}洗」をキャッチフレーズとした『DDインバータ銀河』には、静音運転に加え、洗濯物の量と布質に最適のモーター回転数を自動選択して布のからみを防止する「からみまセンサー」機能や節水・節時間のための「無段水位」「新構造節水槽」

「倍速シャワーすぎ」など、当社の技術を結集しています。

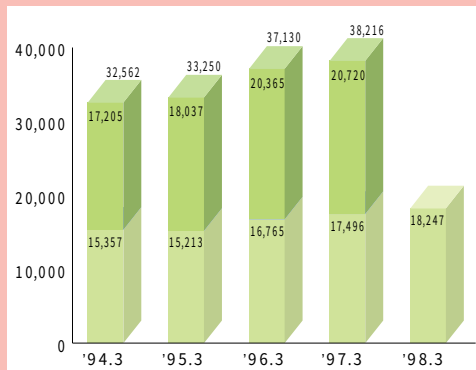
マンション住いで、共稼ぎの家庭など、家事の効率化を図りたい方々には、うってつけの新製品です。



財務データ(単独)

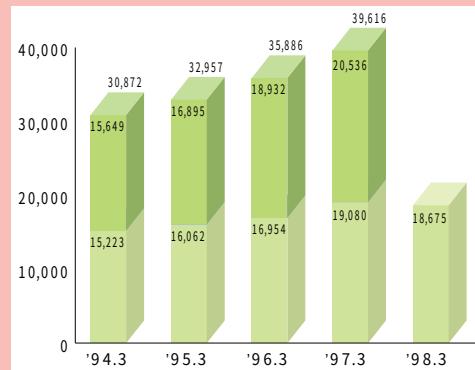
売上高 (単位: 億円)

■ 下半期
■ 上半期

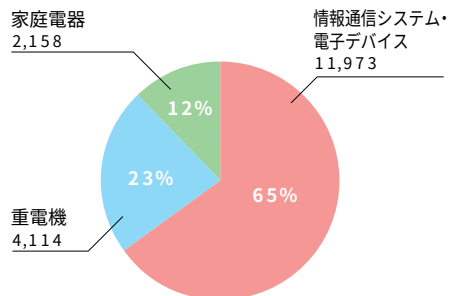


受注高 (単位: 億円)

■ 下半期
■ 上半期

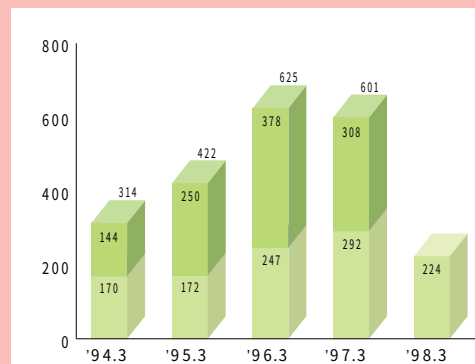


部門別売上高比率 (1997年度上半期) (単位: 億円)



当期利益 (単位: 億円)

■ 下半期
■ 上半期

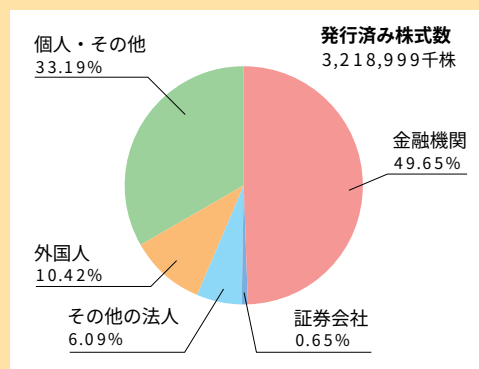


株式の状況

大株主（1997年9月30日現在）

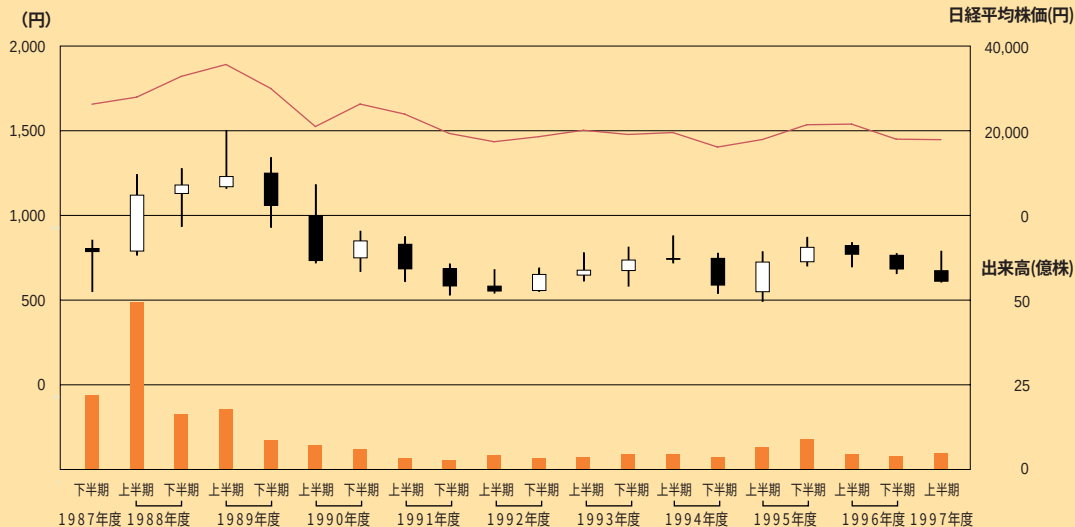
株主名	所有株式数(比率)
第一生命保険(相)	127,941千株 (3.9%)
(株)さくら銀行	120,003 (3.7%)
日本生命保険(相)	113,232 (3.5%)
三井生命保険(相)	88,490 (2.7%)
三井信託銀行(株)	80,638 (2.5%)
住友信託銀行(株)	78,695 (2.4%)
東芝持株会	67,245 (2.0%)
日本火災海上保険(株)	59,500 (1.8%)
(株)日本長期信用銀行	58,961 (1.8%)
(株)東海銀行	58,551 (1.8%)

所有者別株式分布状況(株式数) (1997年9月30日現在)



株価の推移

上半期：各年4月～9月、下半期：各年10月～翌年3月



株式事務についてのご案内

●決 算 期 / 3月31日

●基 準 日

定時株主総会関係 / 3月31日

利益配当金支払株主確定関係 / 3月31日

中間配当金支払株主確定関係 / 9月30日

そ の 他 / 予め公告する日時

●名義書換停止期間 / 予め公告する期間

●公 告 掲 載 新 聞 / 東京都において発行する日本経済新聞

●名義書換代理人 / 東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号
三井信託銀行株式会社

事務取扱所 / 東京都目黒区下目黒六丁目1番21号(〒153)
三井信託銀行証券代行部

電話: 東京(03) 3714-2211 (大代表)

取 次 所 / 三井信託銀行全国各支店

●新券交付手数料 / 1枚につき250円 ただし、併合の場合は無料

株式会社 東芝

〒105-01 東京都港区芝浦一丁目1番1号 (東芝ビルディング)

(03) 3457-4511

インターネットアドレス <http://www.toshiba.co.jp>

表紙: 東芝本社ビル
(写真中央 / 東京都港区)